

「JENESYS2018」中国青年公益事業交流団（招へいプログラム）の記録 （対象国：中国）

1. プログラム概要

中国宋慶齡基金會在派遣した「JENESYS2018」中国青年公益事業交流団計32名が、2月25日から3月3日までの6泊7日の日程で来日しました（団長：井頓泉（セイ・トンセン）中国宋慶齡基金會 副主席）。一行は東京のほか、奈良・京都を訪問。日本の公益事業やボランティア関係機関・関連施設などへの訪問及び関係者との交流を通じて、同分野への理解を深めました。また奈良と京都で歴史・自然・文化等の見学、和風温泉宿泊体験などを通じて、包括的な対日理解を深めました。2月26日には、河野太郎外務大臣を表敬訪問しました。一行は、各々の関心事項や体験についてSNSを通じて対外発信を行いました。また、報告会で帰国後のアクション・プラン（活動計画）について、代表者が発表しました。

https://www.mofa.go.jp/mofaj/press/release/press4_007120.html

【訪問地】 東京都、奈良県、京都府

2. 日程

2月25日（月）

羽田空港より入国

【見学】 皇居・二重橋

【オリエンテーション】

2月26日（火）

【講義聴講】 日本のボランティア活動に関するセミナー

【見学】 東京タワー

【表敬訪問】 河野太郎外務大臣表敬訪問、程永華中国駐日大使表敬訪問

【歓迎会】

2月27日（水）

【訪問・視察】 一寺言問を防災のまちにする会（通称：一言会）

奈良へ移動

【文化体験】 温泉旅館宿泊

2月28日（木）

【訪問・視察】 森と水の源流館、川上村立川上小学校

【ホームステイ】 奈良県飛鳥地域

3月1日（金）

【ホームステイ】奈良県飛鳥地域

【見学】東大寺、平等院鳳凰堂

3月2日（土）

【歓送報告会】訪日成果・帰国後の活動計画発表

3月3日（日）

羽田空港より出国

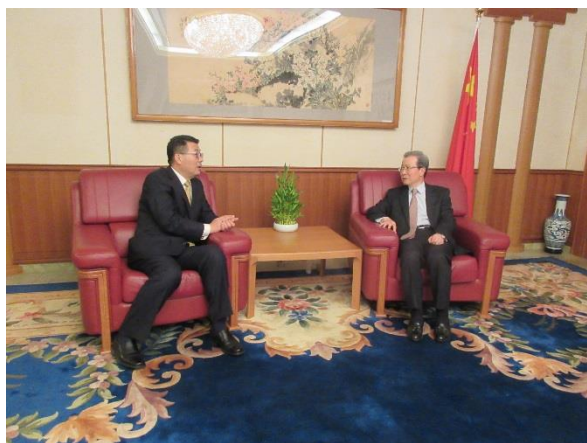
3. プログラム記録写真 （訪問地：東京都、奈良県、京都府）



2月26日 【講義聴講】
日本のボランティア活動に関するセミナー



2月26日 【表敬訪問】河野太郎外務大臣



2月26日 【表敬訪問】程永華中国駐日大使



2月27日 【訪問・視察】
一寺言問を防災のまちにする会



2月28日【訪問・視察】森と水の源流館



2月28日【訪問・視察】川上村立川上小学校



2月28日【ホームステイ】奈良県飛鳥地域



3月1日【見学】平等院鳳凰堂



3月2日【歓送報告会】
井頓泉団長が訪日活動を総括



3月2日【歓送報告会】
団員による感想・アクションプランの発表

4. 参加者の感想（抜粋）

○今回、初めて日本を訪れたが、皆に伝えたいと思える収穫の多い旅だった。河野太郎外務大臣を表敬訪問し、中日の友好関係について改めて理解を深め、友好を望む気持ちが強まった。また、防災の分野で著しい成果を上げている「一言会（一寺言問を防災のまちにする会）」を訪問し、公共の利益というものは細かい部分に反映されるものであることが分かった。さまざまな角度から考えてこそ、安心して暮らせるコミュニティが建設できるのだ。奈良の川上村を訪れ、わずか数十名の生徒のためでも教育をおろそかにしない小学校を参観し、尊敬の気持ちを抱いた。明日香村では、住民の心のこもったもてなしを受け、慎ましく、温かい日本の暮らしを体験した。中国とは異なる部分も多いが、人々が勤勉で、善良で、優しく礼儀正しいところなどは、全く同じだ。急速に進んだ日本の経済発展やAI化、人間本位の配慮などを目に見ると、中国の今後の発展にも一層の期待が持てるようになった。良好な発展を続けている二つの国が友好的な関係の中で手を取り合い、ともに前進し、何世代にもわたる友好の芽を育み、花を咲かせ、末永い友情を築いてほしい。

○収穫の多い日本の旅だった。風光明媚な自然を堪能し、おいしい日本食を味わい、日本の文化を学んだ。特に、ボランティアの管理と防災・減災に関する視察からは得られたことが多かった。

1. ボランティア活動の組織について

講師が、日本におけるボランティア活動の誕生の歴史的背景や活動が続ける上での原則、ボランティア活動の意義や日本で行われている主な作業について説明してくれた。今回の学びを通して、日本のボランティア活動が非常に成熟していると分かった。政府もボランティア活動を重視し、政策と資金の面からサポートしている。一般市民の間にもボランティアの意識が浸透しており、自覚を持ってボランティア活動に賛同し、積極的に参加している。日本のボランティア団体が行う活動は範囲が広い。内容や領域も多様で、参加する人にはごく普通の健康な市民もいれば、老人や身体障害者、主婦もいて、それぞれの強みを活かしている。

2. 防災・減災について

今回の視察を通して、日本人の防災・減災意識の高さが分かった。子どもの頃から専門の訓練を定期的に受けている。特に印象深かったのは、災害を想定した事前の準備を重視していたところだ。100年後を目標に地域づくりを進めており、長期的な子や孫の代の幸せと安全を考えている。

○日本を初めて訪れた感想：

初めて東京に足を踏み入れた時、清潔で秩序のある日本の都市の光景に衝撃を受けた。「日本のボランティア活動」に関するセミナーで、日本も中国と同様、老人介護や空き家問題、老老介護の問題に悩まされていると知り、私が暮らしている大型団地の状況と結びつけて考えた。講師の先生がおっしゃった高齢者ボランティアの募集の話を聞いて気づいた。高齢者が必要としているのは、ただ寿命を全うすることだけではなく、社会への帰属感と集団の中での存在感なのだ。川上村立川上小学校の視察では、考えさせられることが多かった。校内でのゴミの分別、避難訓練や防災教育の徹底など、必要な措置が的確に実施されており、我々も参考にしたいと思った。また、生徒たちの自信や大らかさといった面では、我々の学校の生徒は川上小学校の生徒に比べても劣らないと思った。ホームステイについては、ホストファミリーに温かくもてなしてもらい、日本の一般家庭のライフスタイルについて理解を深めることができた。晩ご飯のあとで新聞を読んだり、折り紙をしたり、絵を描いたりした。携帯電話の使用時間が私の家族よりはるかに短かった。ホストファミリーと交流する中で見えたのは、中国人か日本人かは関係なく、皆、中日両国の友好に貢献したいと願っているということだ。

日本での活動中、細かなところまで完璧を追求する日本人の性質に関心を持った。人間本位の設計で作られた便器、洗面所の鏡の曇り止め、狭いスペースの効果的な利用法、雨水を貯めるタンクの設置などがそれだ。中国の聖人・孔子は言った。「3人行えば、必ず我が師有り」。国の良好な発展のため、他国からの学びは欠かせない。中国経済の急速な発展も、この先、日本のお手本となることだろう。互いに補い合い、中日両国の関係が益々良くなっていくことを望んでいる。

○公益事業への入念な取り組み：今回の日本訪問で最も印象に残ったことは以下の通りだ。

1. ボランティア活動などの指導：活動の種類が多く、さまざまなPRを行って参加希望者を募っている。現在、体験型のボランティア活動は3000種類あまりあり、以下のような指導が行われている。

①多角的なボランティアの企画と、年齢・職業・ニーズ・趣味などをカバーした内容の確立。こうすることで、どんな人でも自分の興味に合わせてボランティアに参加することができる。

②参加者募集のPRを重視し、市民をボランティア活動に誘導して体験してもらい、ネットワークを形成することで持続可能な活動の広がりを狙う。どの取り組みも、細やかな計画と分析の上に成り立っている。

2. 長期的目標を設定して詳細を固め、段階的に実施している。例えば、「一言会」を訪問した際、徐々に道路を拡張し、あらゆるところに消防設備を設置し、雨水を貯めて防災のために使っている様子を視察した。仕事場と住居を分離し、隣近所とはしっかり交流する。まるで子供に名前をつけるように自分たちの居住プランを考え、どんな些細な問題にも丁寧に対応して解決を図る。そんな様子が見て取れた。

3. 効果的なボランティア活動を実施し、教育の後押しを行っている。例えば、奈良の「森と水の源流館」や川上村立川上小学校は、その土地の状況にあわせ、住民をボランティアに動員している。例えば、伝統文化を伝えるため、おじいさんやおばあさんが学校や博物館などでボランティア活動をしている。

今後の仕事に役立てたいこと：どんな些細なことでも、計画的に完璧にやり遂げること。

中国と日本の相違点：日本は細やかで、中国は臨機応変だ。中国の公益事業の柔軟性と革新性は「インターネット」「科学技術」といった豊富な資源を十分に活用して事業を促進し、国民をけん引することによって生まれている。

中国と日本の共通点：「公益」「ボランティア精神」という無償奉仕の心は共通している。

印象的だったこと：視察で訪れた小学校が、わざわざ中日双方の国旗を用意し、掲揚してくれたこと。友好を望む気持ちを感じた。明日香村でのホームステイで育んだ友情も印象に残っている。

○1. 日本のボランティア活動の歴史に関するセミナーを聞き、日本の状況について理解が深まった。

日本のボランティア活動が事業として整備されており、この分野で中国はまだ後れをとっている。今回のセミナーを聞いて得られた収穫は多かった。

2. 川上村立川上小学校を参観し、日本の義務教育の状況を知ることができた。あのような山の中のわずか25名しか生徒がいない学校にも、公的な教育の手が行き届いている。学校の教育方法について参考になる部分がたくさんあった。

3. 明日香村でのホームステイでは、ホストファミリーに奈良県立万葉文化館に連れていってもらい、『万葉集』に関する展示を見学した。中日の歴史の文化の源について理解を深めることができたのは、大きな収穫だった。万葉集はすべて漢字の繁体字で書かれており、日本語が理解できない私も、この古代の書籍の言葉をすべて読むことができた。その後、東大寺と平等院を参観し、中日の

文化交流の歴史に対し、かつて抱いていた憧れの念がよみがえった。残念だったのは、唐招提寺を参観する機会がなかったことだ。

4. この旅で一番心を打たれたのは、日本の社会と日本人の礼儀正しさだ。飛行機は東京に到着し、そのあと京都・奈良を回った。大都市であっても、山村であっても、道にはゴミ箱ばかりかゴミ一つ見あたらない。素晴らしいことだ。環境保護の面で気づかされたことが多かった。日本人の礼儀正しさについては、説明する必要もないだろう。

5. 受入れ側の感想

◆訪問先関係者

○たくさんのご質問をいただき、このテーマ（ボランティア）に関して関心の高さと参加のみなさんの熱心さを感じました。また、ご質問の中で、中国におけるボランティアの現状もお聞きすることができ、本センターにとっても参考になるところがありました。

○皆さまが非常に熱心に学び・見学され、感謝申し上げます。「まちづくり」というには、あまり姿形としての成果が見えにくく、人々の交流という面では、その実態をご覧に入れることが困難でしたので、どの程度、皆さまにご理解いただけたのか、一抹の不安が残りました。

しかし、最後の質疑の中で、活発なご質問をいただき、タイトなスケジュールの中で、一応のあらましだけはご理解いただけたものと感じております。

時間と言葉という、課題の中で、私達も非常に勉強させていただきました。ありがとうございます。

○団員のみなさんは、日本の環境保護・防災教育に対して大変興味をお持ちで、こちらの報告に熱心に耳を傾けられ、質問も多くいただきました。

○交流団の方々34名が来校されるということは、十分わかっていたのですが、実際に来校された時に、人数の多さに少し驚きました。2班に分かれて子どもたちの様子を見学していただきましたが、十分見学していただけたかどうか心配しています。

短い時間でしたが、子どもたちとふれ合っていただくこともできました。子どもたちは、折り鶴を渡したり、中国のお話を聴くことができたりして、喜んでおります。

中国の学校では、子どもたちが掃除をしないと聞き、文化の違いがあることが分かり、よい学びになりました。

6. 参加者の对外発信

3月11日／社会人／WeChat	3月4日／社会人／WeChat
【日本交流访问】一言会的交流考察，一言会的目标是建立“即使发生灾害也无需逃难的街道”“百年后依然留存的街道”。因为目标明确，一言会也拉动每位居民都有很强的自主性及集体感：每做一件事情，都先起名字，像给自己的孩子起名字一样，先确定名字，而后按照设想逐步实施；实施细节也是精耕细作，如材料的使用，不断的一点一点拓宽的街道，雨水的储存和使用，到处可见的消防器材／防灾仓库；空房的处理，转型民宿及小型独户；强化意识教育／邻里交流等。让每个人都是社区的主人，每个人都为家园建设和明确的未来，将实施工作做的更为细致。 	#中国青年公益事业交流团#丰富有趣的一天从早上丰盛的早餐开始，第一站到了森林水源博物馆，了解当地对于水源保护 生态环境保护所做的努力和长远规划，一个纯林业地能有今天这样山青水秀的美景 真的是非常难得。第二站到了村小，虽然学校学生很少，但是老师们的热情接待讲解，让我们了解了学校对于地震，火灾 意外事故的应急处置所做的预案工作，值得我们学习借鉴经验。第三站是最有趣的民宿体验活动，接待我们的主人是一位老师，她用着日式英语，我们用着中式英语 大家居然还能交流沟通。晚上还教了我们做手工和打日本扑克，非常有趣。😄😄😄 简直太有趣了..... 
交流・訪問についての発信 一言会を交流・視察した。「災害が起きても逃げ出さなくてよいまち」、「百年後に残せるまち」を目標とし、一人ひとりの地域住民の主体性や集団意識を引き出そうとしている。一つのことをするたびに名前を付けることから始める、自分の子供に名前を付けるように、名前を決めてから、計画通りに実行に入る。細かい部分の実施も入念に、材料の使用など、少しずつ道路を広げ、雨水を貯めて使用する。至るところに見える消防機材や防災倉庫。空き家を民泊及び小型一戸建てにする等の処理。意識教育の強化、近隣との交流など。人々を地域コミュニティのホストになれるよう、みんなが参加するまちづくりと明るい未来のために、きめの細かい活動を実施している。	日本文化・学校交流についての発信 豊かな一日は豊かな朝食からだ。最初に訪れたのは森と水の源流館、川上村の源流の水源地保護や生態環境保護への長期間の計画及び努力について理解した。ただの林業地が今日のように美しい風景になることはめったにない。その後は川上村立川上小学校を訪問した。生徒は少なかったが、先生たちから丁寧な説明を受け、学校の地震、火災等災害への応急措置の取組みについて理解できた。参考すべきだと思った。それから是最も面白い民泊体験をした。私たちを受け入れてくれた家庭のお母さんは教師だった。彼女は日本語式英語、私たちは中国語式英語で意外にコミュニケーションがとれた。夜は手芸と日本のトランプを教わった。とても楽しく面白かった・・・

3月9日／社会人／WeChat	3月1日／社会人／WeChat
终于得空回顾本次中日青年公益交流活动。 活动期间有幸拜会了日本外务大臣河野太郎及中国驻日本大使程永华。东京志愿者及市民活动中心关于日本志愿服务的讲座详细介绍了日本志愿服务历程、理念以及老龄化等社会问题带来的挑战；在防灾街道集会代表“一言会”、奈良水源地森林源流馆和川上村立川上小学，对日本的防灾、环保意识和青少年教育等方面进行了深度了解；奈良明日香村的日本家庭寄宿体验让我们能够以生活的视角观察、感受日本的民俗、文化。 见贤思齐，更要见问题而自省。 感谢公司提供本次机会，感谢宋庆龄基金会的筹办，感谢中日友好会馆的贴心安排！接下来该我们为中日友好事业贡献力量啦。 	 #中国青年公益事业交流团# 奈良的东大寺，京都的凤凰社，深厚的佛教文化，鲜明的隋唐风格，中国人来到这里感受最多的是陌生的熟悉感，通过历史看日本，通过日本看中国。PS.喜欢小鹿的在奈良...
視察・訪日への抱負についての発信 やっと今回の訪日を振り返ることができた。 訪日中、幸いにも河野太郎外務大臣や程永華中国駐日大使を表敬訪問することができた。東京ボランティア・市民活動センターから日本ボランティア活動の道のりや理念、及び高齢化など社会問題への挑戦について紹介があった。一言言問を防災のまちにする会、奈良の森と水の源流館及び川上村立川上小学校の視察を通して、日本の環境防災意識や青少年教育などについて理解を深めた。奈良県明日香村での民泊体験を通じて、私たちは生活の視点から日本の民俗、文化を肌で感じる事ができた。優れた人を見たら、自分もそれと同じようになろうと思い、さらに悪いところはないかと反省すべきである。この機会を与えてくれたことに感謝する。宋慶齡基金会からの派遣と日中友好会館の手配に感謝。中日友好事業のため貢献をしていこう。	日本文化についての発信 奈良の東大寺、京都の鳳凰堂、深い仏教文化、鮮やかな隋唐風格、中国人がここに来て最も感じたのは初めてなのに懐かしい感覚、歴史を通して日本を見る、日本を通して中国を見る。

7. 報告会での帰国後のアクション・プラン発表



- ・ 職場の同僚たちに日本での学びや体験について解説し、火災・地震などへの防災対策や、学校で行われている活動について、日本の進んだ理念を学習する場を持ちたい。
- ・ 自宅で寿司を作りたい。ホームステイの時に、ホストファミリーたちが教えてくれた作り方でやってみたい。
- ・ 余暇を使って、日常会話で使える日本語を学びたい。
- ・ 日本でできた友人と連絡を取っていききたい。
- ・ 自宅でゴミの分別を実践するよう家族に提案したい。
- ・ 帰国したら、環境保護について体験したことや学んだことを、職場に報告するつもりだ。学生向けの環境保護の知識の普及と応用に関する対策の制定について考え、ゴミの分別も行おうと思う。まずは学校から環境保護に対する高い意識を育みたい。
- ・ 日本の優れた生活習慣を家族に伝え、自分たちの健康に対する考え方に合った習慣をいろいろ試しながら取り入れたい。日本の友人と今後も連絡を取り合い、日本人の仕事やライフスタイルをもっと知りたい。また彼らを中国に招いて交流し、中国の文化や伝統、生活も知ってもらいたいと思う。